

国際的マスギャザリングの前に 受けておきたいワクチンまとめ

定期接種対象者についてはすべて接種すべき年齢に応じて
必要回数の接種が行われていること



事前に受けておきたいワクチン

疾患名	一般市民	医療関係者	大会関係者	メディア関係者
麻疹	+++	+++	+++	+++
風疹	+++	+++	+++	+++
髄膜炎菌	-	++	++	+
A型肝炎	-	+	++	-
B型肝炎	-	+++	-	-
水痘	+	+	+	+
流行性耳下腺炎	+	++	++	+
インフルエンザ*	+	+	+	+

+++ 全員に強く推奨(定期接種が未完了もしくは不明のものを含む)

++ 感染のリスクが高いと考えられる人に推奨

+ 接種が好ましい

- 平時と同様の対応

*インフルエンザワクチンの接種に関しては、大会前ではなく、大会開催1年前(2019-20シーズン)の接種を指す

一般社団法人 日本感染症学会、日本小児感染症学会、
症状からアプローチする インバウンド感染症への対応 ～東京2020大会にむけて～ 感染症クイック・リファレンス
(2019年12月2日アクセス : http://www.kansensho.or.jp/ref/vaccine_before.html)

事前に受けておきたいワクチン(抜粋)

2. 髄膜炎菌ワクチン(4価結合体髄膜炎菌ワクチン)

1 接種を検討すべき対象者

- 医療関係者で大会関係者の髄膜炎菌感染症患者を診察・介護する可能性が高い人(救急担当の医師、看護師、救急隊員など)。
- 大会関係者で髄膜炎菌の流行国(例:サハラ以南のアフリカ諸国、欧州・中東諸国など)からの参加者と接触する可能性が高い人(選手村で活動するスタッフ、ボランティア、通訳、メディア関係者など)。
- その他、一般的に髄膜炎菌感染症としてリスクが高いと考えられている人、すなわち機能的・解剖学的無脾症、エクリズマブ投与者、男性同性愛者(MSM)など。

2 接種を検討すべき理由

- 国内では髄膜炎菌感染症は稀な疾患であり、ワクチン被接種者や防御免疫保有者は少ないと予想される。
- 諸外国、および国内においても国際的なイベントを契機とした侵襲性髄膜炎菌感染症アウトブレイクの報告が複数なされている。
- 発症した場合、急激に増悪する劇症型の存在を含め重篤な疾患であり、適切な治療を行っても不幸な転帰をたどる例がある。

3 推奨接種スケジュール

- 1回筋肉内接種
(接種対象者:2歳以上55歳以下。国内ではこの年齢外の安全性、有効性は確立していない)。

4 接種に際し注意すべき点

- 同時接種は可能だが、機能的・解剖学的無脾症、あるいはHIV患者においては肺炎球菌ワクチン(PCV13)との同時接種はその免疫原性への影響から、推奨されていない。
- 少なくともイベント関係者と接触する2週間前。